

平成28年度 事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 平成28年度の重点目標に対する事業経過報告

生活介護の事業を開始して2年、施設入所利用者の高齢化と重度化が進みつつあることを考慮し、「利用者支援の向上・作業の効率化」を最重点課題として取り組んだ1年となった。利用者支援においては生活介護の日中活動と作業活動を現行の体制から見直し、より質の高い支援体制への改善を図った。作業部門においては、中長期的な展望での製販計画を立案、各作業班の計画達成を目標に掲げ、計画的な実践に努めた。その他にも以下に掲げる事項を重点目標とし、その実践に努めた。

(1) 利用者支援の向上を図り、支援情報の共有化を模索する。

職員間もしくは作業部署ごとの利用者情報を共有する体制は強化されつつあるが、情報共有と連携の意識が部署により若干差異があることが判明し、検討の結果、第二作業所(通称、竹工)において平成29年3月に大きな組織変更を行った。また、同じく竹工において今年度も生活介護カリキュラムの変更に着手する計画を立案、次年度の上半期を目標に新カリキュラムによる支援を開始予定である。

(2) 人事管理制度の円滑な遂行。

28年度は、26年に一部改正した人事考課規程を軌道に乗せることを主眼に「新人事制度の円滑な遂行」「考課者の基準の統一」の2つを目標に掲げ、人事考課を実施、円滑な運用が行えた。次年度より考課者が増えることを考慮し、更に考課者の評価基準の統一・徹底を図っていききたい。

(3) 支援委員会・業務改善委員会の円滑な運営を実施。

① 支援委員会

- 〔生活委員会〕入所利用者の快適な生活環境を整えられるよう、施設敷地内及び居室内の定期的な点検を実施。改善が必要な箇所の把握・修繕や休憩時間等に利用者が快適に過ごせるように園庭にベンチを購入・設置を行った。
- 〔地域委員会〕緑ヶ丘納涼夏祭りなどの各種バザー(計22回)の他に新規バザーに出店(新規出店5回:農福マルシェなど)し、広報活動・売上向上に努めた。また、各行事の円滑な運営を目標に、計画と準備に取り組んだ。

- 〔作業委員会〕 作業班別の育成シートの活用はまだ不十分な点はあったが、目標にしていた各作業班での主体的な行動についてはできていた。今後も改善点を話し合い育成シートのレベルアップと活用を促進していく。B型事業の平均工賃も上げることができた。
- 〔職場改善委員会〕 内部研修を実施し、職員の資質向上やモラルアップを図った。また、職員行動チェックリストやレポートなどを活用し、人材育成とコミュニケーションの向上を図り、働きやすい職場作りに努めた。
- 〔人権擁護委員会〕 内部研修2回、グループディスカッション1回、虐待防止チェックリストの活用1回を実施する。その他にも各作業班に人権擁護に関する標語の掲示や、外部研修等にも積極的に参加し意識の向上並びに再発防止の機会を作った。
- 〔地域貢献委員会〕 地域との関係強化を目標に六月灯等の地域行事の準備段階から参加し、今まで以上にコミュニケーションを図っていった。その他に班会にもGH担当が参加する。年末には近隣住民と町内会長を招いて餅つき大会を企画したが、雨天で中止となる。今後は施設行事として餅つき大会を実施し、地域の方々とのふれあいの場を設けるようにする。

② 業務改善委員会

- 〔センターふれあいバザー実行委員会〕 11月20日に実施。50回記念ということで拡大開催。トミカ、プラレール・記念講演会・フリーマーケットなどを企画し、大変好評であった。実行委員会を早期に立ち上げ準備を徹底したことにより、当日の運営も円滑であった。
- 〔入所・GH 旅行委員会〕 28年度は自治会等で利用者の希望を聞きグループホーム3チームが霧島市・宮崎方面に分かれ1泊～2泊の旅行を実施。利用者の要望等を積極的に取り入れたことでみんな楽しく旅行ができ、好評であった。
- 〔行事 A・B・C〕 利用者のリフレッシュと社会性の向上を図る為、買い物外出2回、利用者みでの外出4回と宿泊キャンプ(十曾青少年旅行村)・バーベキュー・忘年会・新年会・日帰り旅行等を実施する。日帰り旅行は、これまでの大人数から少人数での旅行に変更し実施した。その他職員引率では、恐竜展・音楽鑑賞・維新ふるさと祭・農福マルシェなどに参加するなど、利用者の要望を積極的に取り入れ実施し、好評であった。
- 〔広報委員会〕 ベーカリー楓・カフェNODOKAの周知・集客率アップを目的とし、平成28年度より広報活動を行っている。Instagram・Facebookを主な媒体とし、2店舗の情報提供を行っている。今後更に有効活用出来るよう、写真・文章掲載のあり方等を検討していく予定である。

(4) 授産事業（各作業班の状況）

蔬菜班・・・売上計画は達成。作付面積を減らしたことで野菜管理・環境整備は少しずつ充実してきている。重点目標である新人職員育成については、まだまだ改善すべき課題が多い。また来期は、利用者支援の充実と地域の方との交流にも力を入れていく。

菓子班・・・売上計画は若干下回る。昨年の課題であった販売体制の見直しや新規顧客の開拓が今期も計画的に行う事が出来なかったことが達成できなかった大きな要因として挙げられる。また、下期から SNS を活用した広報・宣伝を少しずつであるが実施できた。

カフェNODOKA・・・売上計画は達成する。その中でも広報・宣伝を少しずつだが取り組めたことが、常連客を増やすことが出来た成果だと思う。昨年の課題として挙げていた棚卸し管理の体制も確立し、毎月実施できている。今後は新商品の開発に力をいれていく。

メンテナンス班・・・日常清掃・定期清掃は安定して行えたが、計画していた新規物件の開拓ができなかったこともあり、目標の売上計画を達成することが出来なかった。また、育成シートを活用した人材育成が計画通りに実施することが出来なかったため、来期は早期の計画立案・実施を行い、計画達成を目指す。

味噌班・・・今年度目標としていたバザーやお中元・お歳暮の売り上げを伸ばし、新規にタイヨーでも販売することができたことにより売上計画を達成することが出来た。しかし、広報・宣伝がまだまだ不十分なので、工夫や改善を行っていく。

竹工班(軽作業)・・・比較的安定した生産活動を維持することができ売上計画は達成する。しかし、目標にしていた人材育成や利用者支援の充実は不十分であった。利用者の高齢・重度化に伴い、今後はより質の高いサービス(支援)の提供と作業場の環境整備を進めることが課題としてあげられる。

陶芸班・・・重点目標や新商品の開発、窯元や地域での催し物を見学することで、マンネリ化していた創作活動が刺激を受け創作意欲が高まった。また、売上目標についても達成することができ、利用者の作る喜びにも繋がった。

園外実習・・・昨年に引き続き、市の方針により減収となる。公園作業者のスキルアップと効率化を図り、維持・継続を行う。

(5) 就労移行(就職先の新規開拓と定着支援体制の強化)

利用者の希望する就職先の選択肢を増やすために、就職先の新規開拓を実施。開拓した企業での実習を経て、29年3月より就労移行支援事業の利用者1名を就職に結びつけることができた。今後は本人の心身の状態把握と就職先の定期訪問による情報交換を行い、定着支援を図っていく。

(6) 家族代表者委員会の活用

家族代表者委員会では平成28年度4回に渡って委員会を開催した。議題としては、28年度の施設主催バザー(春・秋の2回)についての反省、家族会の役員のメンバー交代についての検討、29年度以降の家族ボランティアメンバー選定、障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行い情報の共有に努めた。

(7) 職員の研修

施設内において年間11回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス研修など)の職場内研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上及び、一般常識的な知識の向上に重点を置いた研修を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計57回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

(8) 不審者への対策

28年9月に不審者への対策として鹿児島西警察署に不審者遭遇時の対応・刺又など治具の使用方法及び、護身術の実演 並びに講義を受講した。

(9) 福祉教育

28年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 2名 (1校)
- ② 特別支援学校現場実習 9名 (5校)

(10) グループホームの充実

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(25名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。